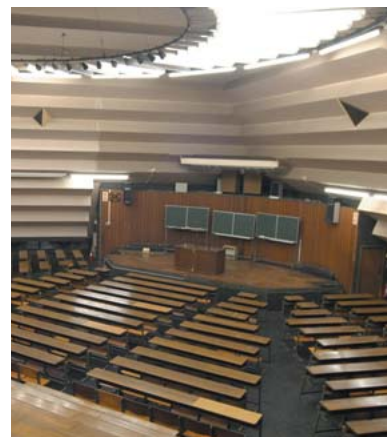


さようなら、ピラミッド校舎 (大学中央教室)



校舎外観と校舎内の様子

”ピラ校”の愛称で親しまれ、ほぼ半世紀にわたって目白キャンパスのランドマークであり続けた中央教室の解体が決まりました。建築後47年を経て、耐震、防水、照明、音響、空調などいろいろな面で大がかりな整備工事が必要とされ、また内部構造や設備も現在の大学の授業には不向きであることなどからの決定です。多くの卒業生、また在学生のキャンパスライフの背景として溶け込んでいた中央教室に、感謝を込めながらスポットをあててみました。

はなだ ゆうこ
院史資料室 花田裕子

ピラミッド校舎の歴史

・「学問のコア」の中心として

中央教室は、昭和35(1960)年に竣工しました。以来47年間、構内に高層の建物が増えた今も、独自の存在感を持ち続けています。

昭和24年に発足した学習院大学は、学科の増設や大学院の開設、それに伴う学生数の増加に対応するため、



建築途中の中央教室

整備計画をたてて施設の充実をはかってきました。昭和34年に策定された「学習院創立八十五周年私学十五周年記念建設事業」では、総合計画として新しい建物群の建設が立案され、前川国男建築設計事務所が設計を担当しました。

それまでの大学の建物群は、各建物が思い

いに建っていて、孤立しており組織的ではありませんでした。そこで新しい計画は、まず大学の機能を建築的に分類し、「学問のコア」と「学生生活のコア」の二つに規定することから始められました。「学問のコア」の中心に位置づけられた建造物が中央教室です。

ちなみに「学問のコア」とは、大学の機能のなかでは研究・教育活動の場を意味し、中央教室を中心として、南から時計回りに南1号館・西1号館・北1号館・(旧)本部棟・南2号館が取り巻く一帯の空間を指します。上にあげた6棟のうち、既存の南1号館と西1号館を除く4棟がこのとき新築されました。

中央教室が「学問のコア」の中心であることから、昭和35年4月より各校舎・建造物も中央教室からの方角によって呼ばれることになりました。

※コア=建物で、共用施設をまとめて設置した所(『大辞林』第二版 三省堂)

・「学習院新聞」が愛称を募集

中央教室は、頂点までの高さ25m。内部は700名の収容能力をもつ教室で、上部には映写室を備えています。形状を四角錐にした理由は「工事概要」に建築学的な見地から述べられていますが、他に類を見ないシ



完成した中央教室と(旧)本部長
(昭和35年8月竣工)

大学中央教室校舎跡地の 今後について

いし いしんいち
施設部長 石井新一

目白キャンパスにある大学中央教室の跡地に建設予定の大学中央教育研究棟(仮称)建築計画について、現在までに詰まっている基本計画の概要を報告します。

中央教育研究棟は、南1号館南側に建設予定の自然科学研究棟(仮称)と併せた大学キャンパスプランに基づく建築計画の一つです。

中央教育研究棟の設計の考え方は、次のとおりです。(1)キャンパス景観について①南1号館、自然科学研究棟と中心軸を揃えて大学キャンパスの骨格を形成すること、②同棟南側広場に中央教室の外観形状を継承したピラミッド広場を計画していること。(2)外観等のデザインについて①南1号館、西1号館との調和を図り、ゴシック様式を踏襲した計画、等です。

—建築概要について—

現時点での同棟は、地下1階地上11階建、延床面積約1万4千㎡余の規模で計画予定です。収容予定の主な諸室は、(1)法科大学院の教員研究室、学生自習室のほか演習室、共同研究室、(2)外国語教育研究センター及び同センター関連施設(CALL教室)を集約、強化して語学教育の一層の充実を図る、(3)スポーツ健康科学センター、教職課程のほか日常的に学生対応が頻繁に行われる事務部門・国際交流センター等を配置し、学生のアクセスを容易にし、学生サービスの向上を図る、(4)地下1階に大教室、中層階に教室・演習室等の予定ですが、変更がある場合もあります。

同棟の工期は、平成20年夏着工、平成21年度中の竣工予定と考えており、これに先立ち中央教室(上部)の取壊しを平成20年1月～3月に計画を予定しています。

—自然科学研究棟建築概要について—

最後に、自然科学研究棟(仮称)の建築概要を報告します。同棟は、地下1階地上9階建、延床面積約11,426㎡の規模で、収容諸室は新設の生命科学専攻、生命科学科関連及び物理、化学関係の実験室、研究室、学生実験室、工作工場のほか、学部長室・事務室等であり、教育、研究活動の機能性を一層充実させ、自然科学研究科、理学部の大いなる飛躍が期待されています。同棟の工期は、平成20年4月着工、平成21年3月竣工予定です。

ウルトラセブンとピラミッド校舎

ピラミッド校舎は、過去に「ウルトラセブン(製作:円谷プロ 放映:1967年10月1日～1968年9月8日)」の第29話「ひとりぼっちの地球人」で京南大学という設定でロケーションが行われたことがありました。当時のピラミッド校舎の様子は「DVDウルトラセブンVOL.7」で観ることができます。ご興味のある方はどうぞ。



©1967円谷プロ

ンボリックな形は見る者に強い印象を与えます。

昭和35年12月に創刊100号を発行した「学習院新聞」では、100号記念として中央教室「建築文化」168号に紹介された中央教室(昭和35年)の愛称を募集。「フェニックス・ホール」「安倍講堂」「サクラ・ホール」など多数の案の中から「ピラミッド教室」が採用されました。現在では「ピラミッド校舎」が通り名で、略して「ピラ校」と呼び慣わされています。

参考文献 『学習院大学五十年史』上巻 2000
「新装の学習院大学 工事概要」1960
「建築文化」No.168 彰国社 1960

—中央教室の見学会について—

取壊し予定の中央教室の見学会(撮影可)を下記の日程で行いますのでご案内いたします。当日は同教室内部を開放しておりますので、ご覧ください。詳細は本院HPをご覧ください。

日時:平成20年1月12日(土) 12時30分から15時30分
平成20年1月13日(日) 9時30分から15時30分
本件の問合せ先、施設部施設課 電話(代表) 03-3986-0221